

3)春播小麦新品種候補「北見春53号」

北見農業試験場 研究部 小麦科

1.はじめに

現在、春播小麦は1万ha前後の作付があり、そのほとんどがハルユタカである。ハルユタカは短強稈で、多収であるが、耐穂発芽性、赤かび病抵抗性が弱く、被害粒が多い欠点を有し、生産者の作付意欲を鈍らせている。さらに春播小麦として要求されるパン適性も不十分である。しかし、近年の国産麦でパンを作る動きにささえられ、ハルユタカはパン用としても使われており、そのため製パン適性の優れる品種の育成が強く望まれている。

2.育成経過

本系統は、多収の北見春31号と良質の北見春30号のF₁を母とし、強稈の北見春34号を父として人工交配し、以後選抜固定を図ってきたものである。

3.特性の概要

本系統は、ハルユタカ並の稈長で、強稈性も同程度に優れる。成熟期はハルユタカよりやや早い。収量性は育成地ではやや劣るが、栽培適応地帯ではハルユタカ並みである。外観品質はハルユタカよりとれる。耐穂発芽性はハルユタカより明らかに強く、赤さび病、赤かび病にも強い。うどんこ病にはハルユタカよりやや弱い。製粉適性はハルユタカと同程度に優れ・蛋白含有率はハルユタカよりやや少ない。ファリノグラムのパロリメータバリューは高く、グルテンの質はハルユタカより優れる。アミログラムの最高粘度はハルユタカより明らかに高い。製品(パン)テストによる製パン適性は、ハルユタカより優れる。

4.普及態度

ハルユタカより優れる製パン適性を十分に発揮させ、品質の安定化を図るため、成熟期に比較的雨害を被ることが少ない、道央中部・北部、道北地域におけるハルユタカの製粉用の一部に置き換える。栽培にあたり、ドリル播栽培とし、標準施肥を遵守する。融雪後出来るだけ早期に播種し、収量、品質の安定化を図る。耐穂発芽性は強いが品質を維持するために適期収穫に努める。

表1 育成地および普及見込み地帯における生育収量調査

実施場所	系統名または品種名	出穂期(月日)	成熟期(月日)	稈長(cm)	穂数(本/m ²)	倒伏	子実重(kg/a)	対標準比(%)	千粒重(g)	粒重(g)	外観品質
育成地	北見春53号	6.30	8.16	90	576	微	44.9	96	38.0	779	上下
	ハルユタカ	6.30	8.14	86	626	微	47.0	100	36.3	748	中上
	ハルヒカリ	6.30	8.12	106	590	多	36.4	77	36.2	768	中上
中央農試	北見春53号	6.26	8.10	81	488	無	33.3	103	40.4	784	中上
	ハルユタカ	6.26	8.06	81	506	無	32.2	100	38.7	763	中上
上川農試	北見春53号	6.27	8.04	86	434	無	42.3	102	38.6	794	上上
	ハルユタカ	6.27	8.03	83	417	無	41.6	100	37.3	777	上下

表2 特性検定試験(北見農試)

系統名または 品種名	強稈性	耐穂発芽性	耐病性		
			赤さび病	赤かび病	うどんこ病
北見春53号	強	強	強	中	やや強
ハルユタカ	強	中	強	やや弱	強

表3 品質検定試験(北見農試)

系統名または 品種名	原粒		製粉性		60%性状					ファリノグラム VV	アミノグラム MV (B.U.)
	灰分 (%)	蛋白 (%)	保留 (%)	ミリング スコア	灰分 (%)	蛋白 (%)	沈降価 (ml)	湿麩 (%)	カラー バリュー		
北見春53号	1.61	13.2	71.3	80.8	0.51	12.3	63	35.3	2.67	63	471
ハルユタカ	1.69	14.0	73.5	79.5	0.55	13.1	58	41.0	3.95	53	109
ハルヒカリ	1.68	14.6	70.6	76.1	0.57	13.7	58	38.9	3.32	51	135

系統名または 品種名	エキステンソグラム(135分)				製パン試験							
	面積 (cm ²)	伸長 抵抗BU	伸長度 (mm)	形状 係数	焼色	パン 体積	内相	内相色	触感	食感	食味	合計
北見春53号	143	569	18	3.05	3.0	2.7	3.2	3.3	3.7	3.3	3.5	22.7
ハルユタカ	126	522	180	2.91	3.0	3.2	3.3	3.0	3.3	3.0	3.0	21.8
ハルヒカリ	123	616	153	4.13	3.0	2.8	3.0	2.7	3.7	3.0	2.7	20.9

注)製パン試験は(K.K.)T製粉による。スコアは各項目とも5点満点で、3点が標準。

[目次へ戻る](#)